

TOPIC

生物多様性の保全

～国内の森づくりの現場から～

5月22日は国連が定めた国際生物多様性の日です。

今年のテーマ「From Agreement to Action: Build Back Biodiversity」

(「合意」を「実行」に。生物多様性を取り戻そう。)に沿ったセミナーや会議の開催など、

今月は世界中でさまざまな関連イベントが予定されています。オイスカが取り組む

植林プロジェクトにおいても、生物多様性の保全につながっている事例が多くあり、

今回は宮城県名取市で進む「海岸林再生プロジェクト」の事例をご紹介します。

海岸林復旧における生物多様性の保全

宮城県名取市で進む「海岸林再生プロジェクト」(以下、プロジェクト)は、東日本大震災の津波で流された海岸林を再生する取り組みで、37万本のクロマツを植え、現在もその管理を続けています。

日本の森林史上最大の被害となった海岸林を再生するために、国をあげて史上最大規模の成育基盤盛土を造成して海岸林を復旧することになった被災地。オイスカもこの動きを支援するためにプロジェクトを立ち上げました。仙台湾で海岸林の復旧を進める東北森林管理局仙台森林管理署(以下、仙台森林管理署)の方針にあわせクロマツを植えることとしましたが、当初は、「生物多様性の観点に立ち、クロマツ以外の木も植えるべき」といった声が寄せられることもありました。しかし、林野庁が設置した「東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会」で打ち出された方針でも最前線では主にマツ類の植栽が基本となって

いることに加え、このエリアは400年ほど前からクロマツが植えられていた場所であることから、オイスカはこれらを参考に今日まで活動を進めてきました。

海岸林の再生にあたっては、より強い防災機能を発揮できるように、成育基盤盛土を造成することが同検討会で決まり、その工事は仙台森林管理署によって進められました。その際には、生物多様性保全の観点に立ち、元々ある海岸の環境を残した「生物多様性配慮ゾーン」と、盛土により早急に復旧をした「防災機能優先ゾーン」とを設置し、それぞれに生物多様性の保全に向けた目標を設定。また、その評価のための「環境影響調査」も行われています。

クロマツの森にすむ生き物たち

プロジェクトでは、広葉樹(約600本)を植えているほかはクロマツのみの単一樹種の植林を行っています。それでも19年までに行われた調査により、「生物多様性配慮ゾーン」だけではなく、「防災機

プロジェクトで確認された

動植物は

1272種

2013～16、19年の調査で確認された植物、昆虫類、哺乳類、両生類、爬虫類、魚類、底生動物類の総計



能優先ゾーン」においても確認される植物の数が年々増えていることが分かりました。13年には123種だったものが15年には212種となり、19年には277種の植物が確認されています。また今後も海岸林の成長に伴い、生物相が変化していくことが考えられるとも「環境影響調査」の報告書には記されています。

動物に関しても同様の結果です。特に鳥類においては、日本野鳥の会に所属する地元ボランティアである三浦隆さんにより定期的な調査[※]が実施され、23年にも新しい鳥類が確認されています。

三浦さんは、「結果は、海岸林に生息する鳥全てを網羅するものではなく、調査時間に偶然居合わせた鳥の記録程度」とした上で、「クロマツの生長は、裏返すと草原が減少するということ。その変化が与える影響は、草原をすみかにする鳥（代表…ヒバリ）が減り、森林をすみかにする鳥（代表…シジュウカラなどの

※調査は①ラインセンサス（作業道を一周し、出現した場所、種、数、行動を調査）②スポットセンサス（作業道に設定した5カ所の定点に10分間とどまり、①と同内容を調査）に加え、ボランティア活動参加時やオイスカスタッフによる確認も含む。

2023年確認鳥類リスト (抜粋)

種名	タイプ	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ミサゴ	留鳥	●		●	●			●				●	
アカゲラ	留鳥									●			
チョウゲンボウ	留鳥		●				●						
コガラ	留鳥												●
ヒバリ	留鳥			●	●	●	●	●					
アオジ	留鳥				●	●	●	●	●	●	●	●	●
センダイムシクイ	夏鳥					●							
コミミズク	冬鳥												●

カラ類）が増えるといったものの。今はまだその変化が進行中と思われ、今後も継続して観ていきたい」と話しています。

多様な生き物のすみかに

ここに掲載した写真は、すべてプロジェクトで確認された動植物です。現場で汗を流すボランティアの皆さんにとっても、「キツネを見た!」「鳥の巣に卵がある!」といった発見は楽しくもあり、海岸林

が生き物たちのすむ豊かな森に育っているのを実感できる瞬間でもあります。ただし動植物の種類が多ければいいという訳ではありません。プロジェクトにとっては、クロマツの生長に影響を及ぼすクズや、侵略的外来種に指定されているニセアカシアなどでもできる限り駆除する必要があるほか、松枯れの原因となるマツノザイセンチュウを運ぶマツノマダラカミキリも侵入を防ぎたい生物です。

林野庁は、本年3月に「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を発表しました。同指針では、「森林の有する多面的機能の発揮に向けた森林管理は、森林における生物多様性保全にも資する」旨が記載されています。

プロジェクトの一番の目的は高い防災機能を発揮する海岸林を育てることではありませんが、このような私たちの取り組みが、生物多様性の保全にも寄与するとの認識を深め、今後とも活動を進めてまいります。



プロジェクトで確認された鳥類は **69** 種

2013～16、19年の調査で確認された鳥類に23年の確認分を追加

